

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	帝京平成大学
設置者名	学校法人帝京平成大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文社会学部	人間文化学科	夜・通信			35	35	13	
	経営学科	夜・通信			39	39	13	
	児童学科	夜・通信			13	13	13	
	観光経営学科	夜・通信			18	18	13	
健康メディカル学部	理学療法学科	夜・通信			39	39	13	
	作業療法学科	夜・通信			41	41	13	
	言語聴覚学科	夜・通信			36	36	13	
	心理学科	夜・通信			16	16	13	
	健康栄養学科	夜・通信			35	35	13	
	医療科学科	夜・通信			13	13	13	
ヒューマンケア学部	看護学科	夜・通信			43	43	13	
	柔道整復学科	夜・通信			29	29	13	
	鍼灸学科	夜・通信			29	29	13	
薬学部	薬学科	夜・通信			22	22	19	
健康医療スポーツ学部	リハビリテーション学科 理学療法専攻	夜・通信			21	21	13	

健康医療スポーツ学部	リハビリテーション学科 作業療法学専攻	夜・通信			34	34	13	
	理学療法学科	夜・通信			13	13	13	
	柔道整復学科	夜・通信			25	25	13	
	医療スポーツ学科	夜・通信			30	30	13	
	看護学科	夜・通信			22	22	13	
人文社会学部	経営学科	夜・通信			23	23	13	
(備考) ・健康医療スポーツ学部理学療法学科は2021年4月より学生募集停止。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>一覧表は本学 Web サイトにて公表している。以下の URL から閲覧できる。</p> <p>通学課程は「実務家経験のある教員等による授業科目」に該当する場合、シラバスの「実務経験のある教員による授業科目」欄に明記している。</p> <p>通信教育課程は「実務家経験のある教員等による授業科目」に該当する場合、シラバスの「実務経験のある教員による授業科目」欄に明記している。</p> <p>(通学)</p> <p>https://student.thu.ac.jp/thuniversity_etagere/pdf/2025_kamoku.pdf</p> <p>(通信)</p> <p>https://student.thu.ac.jp/thuniversity_etagere/pdf/2025_tsushinkamoku.pdf</p> <p>(通学・通信)</p> <p>https://unipa.thu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	帝京平成大学
設置者名	学校法人帝京平成大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	学校法人役員	2025年5月30日～選 任後4年以内に終了す る会計年度のうち最終 のものに関する定時評 議員会の終結の時まで	理事長
常勤	学校法人役員	2025年5月30日～選 任後4年以内に終了す る会計年度のうち最終 のものに関する定時評 議員会の終結の時まで	副理事長
非常勤	公立病院 病院長	2025年5月30日～選 任後4年以内に終了す る会計年度のうち最終 のものに関する定時評 議員会の終結の時まで	理事
非常勤	株式会社 代表取 締役会長	2025年5月30日～選 任後4年以内に終了す る会計年度のうち最終 のものに関する定時評 議員会の終結の時まで	理事
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	帝京平成大学
設置者名	学校法人帝京平成大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>各学部・学科・コースでは、それぞれの教育研究上の目的に基づいてカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程を編成・実施している。授業科目の担当教員は、この方針に則ってシラバスを作成している。また、記載内容の不備確認やカリキュラム・ポリシーとの整合性の確認を、各学科・コースにおいてセルフチェックにて行っている。</p> <p>① シラバスの内容：科目の基本情報である「必修・選択区分」と「授業形態」、履修の順次・体系性を示す「ナンバリング」、「関連科目」や「実務経験のある教員による授業科目」の情報が記載されている。また、授業に関する具体的情報としては「授業のねらい及び到達目標」、「学修内容」、「授業の形式・計画」に加え、「使用テキスト」、「参考書、その他教材」や、学修に必要な「授業外学修(予習・復習)」も記載されている。成績評価は、科目の到達目標の学修領域(知識・技能・態度領域)に適した方法で行われるが、シラバスには、それら「成績評価方法・基準」を明記している。さらに、ディプロマ・ポリシーとの関連性について明記した「カリキュラムマップ」を別途作成している。</p> <p>② シラバスの公表：シラバスは4月1日より本学のホームページに公表される。また、学生・教職員専用の学修支援ポータルサイトにて照会することが可能となっている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://unipa.thu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 (通学) (通信)
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各学部・学科・コースの教育課程は、それぞれのディプロマ・ポリシーの達成を目標として編成されている。授業科目の履修認定や単位の授与については、学則に「成績評価は、試験、論文、報告書、その他によって行う」と定められており、各学部・学科・コースは、この基本方針を基に、それぞれの授業科目の到達目標の学修領域（知識・技能・態度領域）や学修方法に適う成績評価の方法と基準を設け、評価を実施している。知識領域の学修成果は、主に定期試験によって評価しているが、技能領域や態度領域については、予め定められた論文・レポート等の学修成果物や授業内でのパフォーマンスについて、ルーブリック等を用いて評価している。なお、成績の基準は、S(到達目標を十分に達成できている；100-90点)、A(到達目標を達成できている；89-80点)、B(到達目標を概ね達成できている；79-70点)、C(到達目標を最低限達成できている；69-60点)、F(到達目標を達成できていない；59点以下)で表し、C評価以上を合格として単位を認定している。これらの評価の方法と基準は、各授業科目のシラバスに明記し、学生に周知している。また、学修意欲や授業外の学修等への自主的な取組については、授業評価における自己評価項目や、年度ごとの学修行動調査によって把握し、結果については、図書館で学生が閲覧できる等、学内へ公開している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績の評価をグレードポイント(GP)に換算し、成績評価の総合的・客観的な指標としてGPAを用いている。

GPAを算出する計算式は以下のとおりで、大学ホームページで公表するとともに、学生便覧等で周知している。

学期 GPA 及び通算 GPA を算出する計算式

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{(当該学期に履修登録した科目の GP(Grade Point) × 単位数) の合計}}{\text{当該学期に履修登録した科目の単位数の合計}}$$

$$\text{通算 GPA} = \frac{\text{(各学期に履修登録した科目の GP × 単位数) の合計の総和}}{\text{(各学期に履修登録した科目の単位数の合計) の総和}}$$

※ 評語 S=4GP、A=3GP、B=2GP、C=1GP、F=0GP、試験欠席=0GP、無資格=0GP

学生は、学期末の成績通知で、学期 GPA・通算 GPA および学科・コース内での順位を確認することができる。また、UNIPA の成績閲覧ページでは、経年変化を確認することができる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://data.thu.ac.jp/3417/2127/0917/K01.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

各学部・学科・コースの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー；DP）は、建学の精神に則って策定されており、それぞれの学科・コースの教育課程を履修し、求められる学修成果を有する者に学位を授与することとしている。

DP は大学ホームページで公表するとともに、ポータルサイト「UNIPA」にて掲載している「学科別カリキュラム表」でも周知している。また、科目と DP の関連性をシラバスに記載し学生に周知している。

卒業要件は履修規則及び帝京平成大学通信教育課程規則に定め、大学ホームページで公表するとともに、「学科別カリキュラム表」で周知している。

卒業については、卒業要件に基づいて作成した判定資料により、学科会議で判定し、その結果をもって教授会で審議した後、学長が決定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/pharmacy>（薬学部）

https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/modern_life（人文社会学部）

https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/human_care（ヒューマンケア学部）

https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/health_medical（健康メディカル学部）

https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/comm_health（健康医療スポーツ学部）

<https://tsushin.thu.ac.jp/about/cpdp.html>（人文社会学部（通信））

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	帝京平成大学
設置者名	学校法人帝京平成大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure
収支計算書又は損益計算書	https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure
財産目録	https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure
事業報告書	https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure
監事による監査報告(書)	https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/report

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文社会学部
教育研究上の目的 (公表方法 : https://data.thu.ac.jp/4317/4883/6217/A001.pdf) (概要) 人文社会学部は、本学の建学の精神に則り、多様化する現代社会の要請に応え、様々な専門分野で活躍できる人材の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/modern_life) (概要) 人文社会学部は、建学の精神に則り、社会のさまざまな分野で活躍できる人材の養成を目的とする。本学部の各学科の教育課程を履修し、以下の能力を修得したものに学位を授与する。 学士 (人間文化学) ・学士 (経営学) ・学士 (児童学)
1. 知識・理解 1. 幅広い知識と教養を身につけている。 2. 現代社会の諸課題を的確に把握することができる。 3. 語学力、情報処理能力、コミュニケーション能力を有している。 2. 当該分野固有の能力 1. 各学科の教育課程において基礎的な知識と技能を身につけている。 2. 各学科の教育課程において身につけた専門的な知識と技術を活かすことができる。 3. 持続可能性を追求する社会で、プロフェッショナルとして活躍する力を有している。 3. 汎用的能力 1. 現代社会の諸課題に対し、対処法を見出す能力を有している。 2. 修得した能力を多様化する社会において適切に活用することができる。 3. 物事を論理的・客観的に考察する能力を有している。 4. 豊かな創造力と実践能力を有している。 4. 態度・姿勢 1. 人間愛に基づく公共的使命感や倫理観・責任感を有している。 2. 社会の発展に自立的・主体的に寄与する意欲と能力を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/modern_life) (概要) 人文社会学部は、建学の精神と卒業認定・学位授与の方針に掲げた目的を達成するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。
1. 現代社会の諸課題の解決に役立つ幅広い知識と教養を身につけるための科目を配置する。 2. 語学、情報処理、コミュニケーションなどの基本的な能力を身につけるための科目を配置する。 3. 各専門分野の学びの出発点となる基礎的な知識と技能を身につけるための科目を配置する。 4. 現代社会の実践の場で求められる専門的な知識および行動力を身につけるための科目を配置する。 5. 実習、現場体験、ボランティア活動などとおして、高い倫理観と強い責任感を身につけるための科目を配置する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/modern_life)</p>
<p>(概要) 人文社会学部は、建学の精神に則り、多様化する現代社会の要請に応え、様々な専門分野で活躍できる人材の養成を目指す。この教育目的を達成するため、以下のような入学者を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い知識と教養を身につけ、現代社会の諸課題に立ち向かっていこうという強い意欲を抱いている人 2. 専門知識を積極的に身につけたいという意欲を抱いている人 3. 知識と技能だけではなく、現代社会でそれを活用していくための実践能力を身につけたいという意欲を抱いている人 4. 倫理観と責任感をもって、社会に貢献していきたいという意欲を抱いている人
<p>学部等名 健康メディカル学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://data.thu.ac.jp/4317/4883/6217/A001.pdf)</p>
<p>(概要) 健康メディカル学部は、本学の建学の精神に則り、高度医療を担う一員に必要な専門的知識と技術及び態度を身につけ、さらに教養豊かな人間性を涵養することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/health_medical)</p>
<p>(概要) 健康メディカル学部は、建学の精神に則り、医療・福祉・保健などの専門分野で活躍できる以下の知識・能力・態度を有するに至った者に学位を授与する。 学士 (理学療法学・作業療法学・言語聴覚学・心理学・栄養学・健康科学)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人として自立 (律) できる力を有している。 2. 幅広い教養とコミュニケーション能力を有している。 3. 各専門分野における知識と技術および態度を身につけている。 4. 人間愛に基づき社会に貢献できる力を有している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/health_medical)</p>
<p>(概要) 健康メディカル学部は、建学の精神と卒業認定・学位授与の方針に掲げた目的を達成するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学共通科目 (必修) として、フレッシュセミナー、アドバンスセミナー、英語、および情報リテラシー演習・DS 概論を開講し、社会人として自立 (律) できる力、幅広い教養とコミュニケーション能力、社会に貢献できる力を養成する。 2. 教養教育科目 (選択必修および選択) として、卒業認定・学位授与の方針のすべてと関連する幅広い科目を配置する。 3. 専門科目を学ぶ上で基礎となる専門基礎科目は、学修の順序性を考慮し、学年に応じて配置する。 4. 専門科目を、学科・コースに応じた国家試験受験資格取得、または認定資格取得のためのカリキュラムとして配置する。 5. その他の資格を取得する場合に必要な科目は、4年間にわたり系統的に配置する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/health_medical)</p>
<p>(概要) 健康メディカル学部は、学部・学科・コースの教育目的を達成するため、以下のような入学者を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学後の学修に必要な基礎学力（知識・理解力・実践力）を有している。 2. 物事を多面的かつ論理的に考えようとする姿勢を有している。 3. 自分の考えを文書や口頭で表現し伝える努力ができる。 4. 積極的に他者と関わり、コミュニケーションしようとする熱意を有している。 5. 文化、社会、人間、および医療・福祉・保健に関心を持ち、社会に貢献する意欲がある。

<p>学部等名 ヒューマンケア学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://data.thu.ac.jp/4317/4883/6217/A001.pdf)</p>
<p>(概要) ヒューマンケア学部は、本学の建学の精神に則り、進歩を続ける医療技術や変化する社会情勢に対応して、医療・保健・福祉などの分野で活躍できる人材の養成を目的とする。</p>

<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/human_care)</p>
<p>(概要) 人材育成目標（卒業生が身に付けるべき資質・能力） ヒューマンケア学部では、建学の精神及び大学の目的に則り、豊かな人間性と高い倫理観を備え、医療にかかわる幅広い知識・技能を修得し、専門領域や地域社会に関する課題を解決する能力を備え、医療・保健・福祉などの分野で活躍することのできる人材を育成する。</p> <p>所定の授業科目および単位を修得のうえ、下記の到達目標に示された能力を有すると認められる者に、学士（保健科学）もしくは学士（看護学）の学位を授与するプログラムの到達目標（目標としての学修成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人としての幅広い教養を修得している。 2. 人体の構造や機能、病態、治療にかかわる基礎的な知識を修得している。 3. 専門領域の理論を学び、その基盤となる知識を修得している。 4. 専門領域についての体系的な知識と技能・態度を修得している。 5. 医療・保健・福祉に関する健康支援や社会保障制度の基礎的な知識を修得している。 6. 専門領域の探求のための研究方法や計画立案・実施評価にかかる一連の過程を理解している。 2. 当該分野固有の能力 <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の人権を尊重した上で適切な治療の実践ができる。 2. 科学的根拠に基づく治療計画を立案し、その成果を評価できる。 3. 地域、病院、施設等の多様な場における医療分野のさまざまな課題を発見し、解決する能力を備えている。 3. 汎用的能力 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら問題を見つけ、様々な知識や手段を駆使して対策を立案し、解決のための行動がとれる。 2. 社会人としてのコミュニケーション能力を修得している。 3. 学修や社会生活を送るうえでのルールやマナーを守り、規律ある行動がとれる。

4. 態度・姿勢

1. 学修や課題に対し、主体的、客観的、創造的に取り組む姿勢を備えている。
2. 医療専門職としての自覚をもち、専門領域を探究し続ける姿勢を備えている。
3. 生涯にわたり知識や能力を高めてゆく意欲を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/human_care)

(概要)

カリキュラム編成

カリキュラムは「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3つの枠組みで構成されている。主に1～2年次に学修する「教養科目」は、幅広い知識と教養、豊かな人間性や倫理観を身につけるための基盤となる人文・社会・科学・語学系の科目からなる。

専門領域を修めるために必要な「専門基礎科目」および「専門科目」を、段階的かつ体系的に全学年に配置する。

「専門基礎科目」は、専門領域を学ぶための基盤となる科目で、基礎医学、臨床医学、関係法規等の科目も含まれる。

「専門科目」には、講義科目、演習科目、実習科目が配置されている卒業研究を配置し、問題発見・解決能力、研究内容を論理的にまとめる能力、発表する能力、コミュニケーション能力などを醸成している。

国家試験の受験資格に係る科目は必修としている。

学修内容・方法

1. 授業の方法は、講義、実習、グループ学習によるアクティブラーニング形式の演習があり、学修内容に適した授業形態を組み合わせる。
2. 「教養科目」では、人間、生活、社会の理解を深め、科学的な思考の基盤となる知識を学び、豊かな人間性や倫理観、社会人としての教養を身につけていく。
3. 「教養科目」の中のセミナー科目は本学共通の必修科目で、1年次～4年次まで少人数クラスでの担任制により実施し、幅広い教養、常識、マナー等を身につけ、医療専門職をめざす大学生として学業や学生生活の定着からライセンスの取得、将来のキャリア設計まで、多岐にわたる学修を積み重ねていく。
4. 「専門基礎科目」では、人体の構造と機能、疾病や障害の病態や治療、健康支援や社会保障制度に関連する科目など、科学的根拠に基づいた専門領域が展開できるための基盤となる知識を修得する。
5. 「専門科目」やセミナー科目での講義、演習、実習を通して、医療専門職としての思考力・倫理的判断力・問題解決力・コミュニケーション能力を醸成していく。
6. 卒業研究は、希望する専門領域での少人数ゼミ形式で行い、研究計画から発表まで一貫した指導により、専門領域内の新たな課題を発見・解決する力を学修する。

学修成果の評価方法

1. 知識・理解にかかわる授業科目の最終的な評価は客観試験を基本とするが、科目の特性に応じて課題、授業中の小テスト、レポート、学習態度等、様々な評価形態を取り入れ、多角的に学修成果を評価する。
2. e-ポートフォリオを導入し、学習成果を可視化し、セミナーにて学修目標の設定や振り返りを行い、学修成果を自己管理できるようにする。
3. セミナー科目はルーブリック評価を用いることで、教員と学生間で評価基準を共有し、学修状況を分析的に評価する。
4. ディプロマポリシーへの到達状況の把握は、各授業科目における寄与度を設定して1年次から4年次まで形成的評価を繰り返すことにより行い、それにより自己の学修成果と課題が明確になるようにする。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/human_care)

<p>(概要)</p> <p>求める学生像</p> <p>ヒューマンケア学部では、次のような学生を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会や健康に広い関心を持ち、修学に必要な基礎学力を有している人 2. 保健医療関連の科目について、基礎的知識および技能を身につける意志を有している人 3. 豊かな人間性、他者に対する優しさや協調性、コミュニケーション能力の重要性を認識している人 <p>入学者選抜の基本方針</p> <p>総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期</p> <p>各学科での学修に必要な基礎学力を有していることに加え、専門領域を学ぶ高い意欲と適性を持つ人を選抜する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語・英語・数学・生物・化学より2科目選択の筆記試験を行う。ただし、看護学科では国語と英語の組み合わせは不可とする。英語は「外部試験」の基準スコア以上の合格証明書のコピーを提出した場合は優遇制度を適用する。 2. 面接により、志望動機、主体的な学習意欲、思考力、判断力、表現力、協調性等を評価する。 3. 基礎学力や医療職としての適性を判断する資料として調査書、志望理由の書類審査を行う。 <p>学校推薦型選抜/公募制</p> <p>各学科での学修に必要な基礎学力を有していることに加え、専門領域を学ぶ高い意欲と適性を持つ人を選抜する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語・英語・数学より1科目選択の筆記試験を行う。英語は「外部試験」の基準スコア以上の合格証明書のコピーを提出した場合は優遇制度を適用する。 2. 面接により、志望動機、主体的な学習意欲、思考力、判断力、表現力、協調性等を評価する。 3. 基礎学力や医療職としての適性を判断する資料として調査書、推薦書の書類審査を行う。 <p>一般選抜</p> <p>各学科での学修に必要な基礎学力を有していることに加え、専門領域を学ぶ高い意欲と適性を持つ人を選抜する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語・英語・数学・生物・化学より2科目選択の筆記試験を行う。ただし、看護学科では国語と英語の組み合わせは不可とする。英語は「外部試験」の基準スコア以上の合格証明書のコピーを提出した場合は優遇制度を適用する。 2. 面接により、志望動機、主体的な学習意欲、思考力、判断力、表現力、協調性等を評価する。 3. 基礎学力や医療職としての適性を判断する資料として調査書の書類審査を行う。 <p>大学入学共通テスト利用選抜</p> <p>各学科での学修に必要な基礎学力を有している人を選抜する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指定する2科目の成績により判定する。 2. 指定科目数以上受験した場合には、高得点の2科目を合否判定に使用する。 3. 外国語の「英語」ではリーディング(100点)とリスニング(100点)の配点を「4:1」の比率として、100点満点で換算する。
<p>学部等名 薬学部</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://data.thu.ac.jp/4317/4883/6217/A001.pdf)</p> <p>(概要)</p> <p>薬学部は、本学の建学の精神に則り、医療職としての使命感、及び社会への広い視野を備え、薬物療法の専門職として人と社会に貢献できる薬剤師の養成を目的とする。</p>

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/pharmacy>)

(概要)

人材育成目標（卒業生が身に付けるべき資質・能力）

薬学部薬学科では、建学の精神及び大学の目的に則り、豊かな人間性と高い倫理観を備え、薬学にかかわる幅広い知識・技能を修得し、健康に係る問題を解決するため、患者・生活者中心という視点から他の医療職とコミュニケーションをとり、薬物療法の専門職として連携・協働できる人材を育成する。

所定の授業科目および192単位以上を修得した者で、下記のプログラムの到達目標に示された能力を有すると認められた者に、学士（薬学）の学位を授与する。

プログラムの到達目標（目標としての学修成果）

1. 知識・理解

1. 自然並びに人間社会・文化に対する理解を深めている。
2. 医療や健康の維持増進に必要な基礎薬学の知識を修得している。
3. 薬物治療に必要な医療薬学の知識を修得している。
4. 健康の維持増進に必要な衛生薬学の知識を修得している。
5. 医療の実践に必要な臨床薬学の知識を修得している。
6. 医療・介護・福祉に関する倫理や法制度を理解している。
7. 情報・科学技術に関する倫理や法制度を理解している。

2. 当該分野固有の能力

1. 代表的な症例を解析し、評価するとともに、問題点を挙げ適切な薬物治療を提案できる。
2. 調剤、医薬品情報の収集及び服薬指導を実践できる。
3. 薬学的知見に基づいて、地域住民の健康を支援することができる。
4. セルフメディケーションを支援することができる。

3. 汎用的能力

1. 自ら様々な問題を発見し、専門的知識や調査・研究技術を駆使して分析、考察した上で、問題解決の手段を提案できる。
2. 他者の主張を理解することに努め、自分の考えを論理的に説明することや発表することができ、かつ他者と討論ができる。
3. 日本語による論理的な記述ができる。
4. 英文資料を活用できる。

4. 態度・姿勢

1. 生涯にわたって情報収集や研鑽を継続し、最良の薬物治療や地域住民の健康の維持増進に貢献する姿勢を備えている。
2. 医療人として必要とされる責任感と高い倫理観を有し、地域住民の健康に貢献する態度を備えている。
3. 患者や医療スタッフと適切なコミュニケーションを取り、多職種連携を実践する姿勢を備えている。
4. 常に患者のQOL向上を意識する姿勢を備えている。
5. 薬物治療において、有効性の判断や、重篤な副作用を回避するために、自ら患者の状態や検査を経時的に評価する姿勢を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/pharmacy>)

(概要)

カリキュラム編成

本プログラムは、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に適合した人材を育成するために、教養系科目、語学科目、薬学専門科目、演習科目、実習科目、薬学研究を順次性に配慮して体系的に編成している。1年前期には薬学準備教育を配置して、1年後期からの薬学専門科目を無理なく学修することができるように配慮している。また、薬学

専門領域の知識・理解の修得に合わせて症例解析演習などの演習科目を配置し、修得した知識・理解を活用できる能力を醸成していく。さらに、1年次から各学年にセミナー科目を配置し、関連科目と合わせて薬剤師としての人間性・社会性を育むとともに、医療現場や遠隔地を含む地域医療における薬剤師の基盤を修得していく。セミナー科目では、同時に傾聴、自分の考えを説明する能力、発表する能力、コミュニケーション能力なども醸成していく。1年次から各学年には薬学研究も配置し、問題発見・解決能力、研究内容を論理的にまとめる能力、発表する能力、コミュニケーション能力などを醸成する。

学修内容・方法

1. 自然・人間社会・文化への広い視野と理解を深めるために、一般教養系科目を配置する。
2. 薬学専門科目へと無理なく学修を進めることができるように、1年前期に薬学準備教育を配置する。
3. 確かな専門知識と技能の修得するために、講義科目に加えて、演習科目や実習科目を配置する。
4. 医療・介護・福祉に関する倫理や法制度の理解を深めるために、授業科目を配置する。
5. 先端技術、情報・科学技術に関する倫理や法制度の理解を深めるために、授業科目を配置する。
6. コミュニケーション能力を身に付けるために、演習科目や実習科目を配置する。
7. 健康の維持増進に貢献する能力を身に付けるために、講義科目に加えて、演習科目や実習科目を配置する。
8. 多職種連携を実践する能力や薬物治療の実践的能力を身に付けるために、講義科目に加えて、演習科目や実習科目を配置する。
9. 地域医療の重要性を理解するために、講義科目に加えて、演習科目を配置する。
10. 生涯にわたって情報収集や研鑽をする習慣を身に付け、かつ自ら様々な問題を発見し、調査・分析して問題解決の手段を提案できる能力を醸成するために、1年次からすべての学年に薬学研究を配置する。
11. 演習科目、実習科目及び薬学研究以外の知識・理解を深めるための科目は、主に講義形式で行う。
12. 主体性、姿勢、傾聴力、協働性を醸成する演習科目は、自己学習や少人数の討論に発表を組み合わせた能動学習で行う。

学修成果の評価方法

1. 知識・理解の評価は、主に筆記試験により行う。
2. 当該分野固有の能力に関しては、筆記試験、観察評価、技能評価により行う。
3. 汎用的能力に関しては、観察評価、技能評価により行う。
4. 態度・姿勢に関しては、観察評価、技能評価により行う。
5. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の達成度は、各科目の寄与度を設定し、1年次より総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/pharmacy>）

（概要）

求める学生像

薬学部薬学科では、次のような学生を求めている。

1. 薬学を学修するために必要となる基礎的・基本的な学力を身につけている人
2. 多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している人
3. 良き医療人になるための意欲と行動力を有している人
4. 薬学の専門的知識の修得及び多様な知識の修得を目指す意欲と、医療・薬学における様々な問題を解決するための科学的探究心を有している人

入学者選抜の基本方針

【求める学生像】に示した知識・能力等を備えているかどうかを判定するために、「知識、

<p>技能」、「思考力、判断力、表現力など」、「主体性、多様性、協働性」を以下のような選抜方法において評価する。</p> <p>総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期 基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、志望理由書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>学校推薦型選抜／公募制 基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、推薦書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>一般選抜 学力試験により、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>大学入学共通テスト利用選抜 大学入学共通テストにより、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p>
--

<p>学部等名 健康医療スポーツ学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://data.thu.ac.jp/4317/4883/6217/A001.pdf）</p>
<p>（概要） 健康医療スポーツ学部は、本学の建学の精神に則り、地域における総合的な健康づくりの推進力となる人材や、将来的に指導者となりうる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/comm_health）</p>
<p>（概要） 健康医療スポーツ学部は、建学の精神（実学の精神）に則り、幅広い視野に立った教養を基礎とする専門分野における知識・技術を身につけ、国際的視野に立って活躍できる人間愛にあふれた人材の養成を教育目的に掲げている。各学科の学位プログラムの課程を修め、以下の知識・理解、思考力・判断力・表現力、実践力、積極的な社会貢献姿勢を有するに至った者に学位を授与する。</p> <p>学士（理学療法学・作業療法学・リハビリテーション学・柔道整復学・保健科学・看護学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い視野に立った教養を修得している。 2. 各専門領域の理論と基礎的な知識を修得している。 3. 地域の多様性に対応するための社会、文化とその背景を理解している。 2. 当該分野固有の能力 <ol style="list-style-type: none"> 1. 各専門領域で必要となる技能を修得し、これらを実践的に活用できる。 2. 健康に関する情報を収集・分析して、課題を発見し解決することができる。 3. 社会や障がいのある人に対して、「健康・医療・スポーツ」を介して地域に貢献することができる。 3. 汎用的能力 <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般常識を大切に考えた社会生活を送ることができる。 2. 異なる背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとることができる。 3. 多角的な視点から課題にアプローチし、自らの考えをまとめ、他者にプレゼンテーションすることができる。

4. 態度・姿勢

1. 健康管理・医療・スポーツなどを介して社会に積極的に貢献する姿勢を有している。
2. 各専門領域での研究や実践において、法令を遵守し、倫理的な視点をもって行動する姿勢を有している。
3. 生涯にわたって、各専門領域の知識・技能を高め、専門性を探求する姿勢を有している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/comm_health)

(概要)

健康医療スポーツ学部は、「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3つの枠組みでカリキュラムを構成する。

主に1～2年次で学修する「教養科目」には、幅広い知識と教養、高い倫理性を身につけ、社会に貢献しようとする姿勢を育成するための科目を配置する。

「専門基礎科目」には、健康・医療・スポーツ分野における理論と基礎的な知識や技能を修得するための講義科目・演習科目・実習科目を段階的・体系的に配置する。

「専門科目」には、より専門性の高い知識や実践的な技能を修得するための科目を配置する。

1年次から4年次にかけて配置するセミナー科目では、リベラルアーツ教育を段階的に行う。

学修内容・方法

1. セミナー科目では、学年進行に合わせながら経時的に1年次から4年次までリベラルアーツ教育を行う。具体的には、1～2年次に大学生活や社会生活への順応と、コミュニケーション能力の向上を目指し、3～4年次に卒業後の社会生活に対応した責任感、倫理観、自己管理能力を身につける。
2. 「実学」を基本とした学内実習や臨床実習を取り入れながら、学部のモットーである「健康・医療・スポーツ」を三本柱として、地域に密着した医療職を養成する科目を配置する。
3. 専門職として自覚を高めるために、入学後早期から理学療法学、作業療法学、柔道整復学、医療スポーツ学、障がい者スポーツ学、救急救命医療学、動物医療学、看護学などの各専門分野に関わる科目を配置する。
4. 地域社会における「健康・医療・スポーツ」の実践に資する専門科目を適切に配置し、ステップアップしながら専門性を高めていく。

学修成果の評価方法

1. 知識・理解にかかわる授業科目の最終的な評価は客観試験を基本とするが、科目の特性に応じて課題、授業中の小テスト、レポート、学修態度等、様々な評価形態を取り入れ、多角的に学修成果を評価する。
2. e-ポートフォリオを導入し、学修成果を可視化し、セミナーにて学修目標の設定や振り返りを行い、学修成果を自己管理できるようにする。
3. セミナー科目はルーブリック評価を用いることで、教員と学生間で評価基準を共有し、学修状況を分析的に評価する。
4. ディプロマ・ポリシーへの到達状況の把握は、各授業科目における寄与度を設定して1年次から4年次まで形成的評価を繰り返すことにより行い、それにより自己の学修成果と課題が明確になるようにする。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/policy/comm_health)

<p>(概要)</p> <p>健康医療スポーツ学部は、次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康・医療・スポーツ分野の関連科目を修得できる十分な基礎学力を有している人 2. 専門職としての意識を育み、チームワークを大切に考え社会性のある行動を取ることができる人 3. 地域における総合的な健康づくりの推進力となり、将来的に指導者となろうとする向上心を持って努力する能力を有している人 4. 障がいのある人と関わる医療職の専門家として、弱者に対する協調性、理解力、優しさ、コミュニケーションの重要性を認識し、行動できる社会貢献能力を有している人 <p>入学者選抜の基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合型選抜 知識・技能を基礎能力検査、調査書、英語外部試験成績、活動報告書から評価する。思考力・判断力・表現力を個別面接、志望理由、活動報告書から評価する。主体性・多様性・協働性を個別面接、調査書、志望理由、活動報告書から評価する。以上の評価指標の結果を総合して判定を行う。 2. 学校推薦型選抜（公募制） 知識・技能を基礎能力検査、調査書、英語外部試験成績、推薦書から評価する。思考力・判断力・表現力を個別面接、推薦書から評価する。主体性・多様性・協働性を個別面接、調査書、推薦書から評価する。以上の評価指標の結果を総合して判定を行う。 3. 一般選抜 知識・技能を学力試験、調査書、英語外部試験成績から評価する。思考力・判断力・表現力を学力試験、個別面接から評価する。主体性・多様性・協働性を個別面接、調査書から評価する。以上の評価指標の結果を総合して判定を行う。 4. 大学入学共通テスト利用選抜 知識・技能を大学入学共通テスト、調査書、英語外部試験成績から評価する。思考力・判断力・表現力を大学入学共通テストから評価する。主体性・多様性・協働性を調査書から評価する。以上の評価指標の結果を総合して判定を行う。
--

<p>学部等名 人文社会学部（通信）</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：https://data.thu.ac.jp/4317/4883/6217/A001.pdf）</p> <p>(概要)</p> <p>建学の精神及び人文社会学部の目的に則り、多様化する現代社会の要請と大学通信教育の特性を鑑み、幅広い教養と専門的な知識・技能を修得し実践的に活用できる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://tsushin.thu.ac.jp/about/cpdp.html)</p> <p>(概要)</p> <p>人文社会学部 経営学科 通信教育課程は、建学の精神に則り、様々な専門分野で活躍できる人材の養成を目的とする本通信教育課程の教育課程を履修し、以下の能力を修得した者に学位を授与する。</p> <p>学士（経営学）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養を身につけ、現代社会の諸課題を的確に把握し、その対処の仕方を見いだすことができる。 2. 現代社会のさまざまな場面において、身につけた語学力、情報処理能力、コミュニケーション能力などを適切に発揮することができる。 3. 経営学分野の基礎的な知識と技能を身につけ、物事を論理的・客観的に考察すること

<p>ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 専門分野の職業人として、経営学はもとよりほかの関連科目において修得した専門知識・技能を、持続可能性が求められる社会のさまざまな場面において課題解決に役立てることができる。 5. 人間愛に基づく公共的使命感や倫理観及び責任感をもとに、社会の発展に自立的・主体的に貢献することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://tsushin.thu.ac.jp/about/cpdp.html)</p>
<p>(概要) 人文社会学部 経営学科 通信教育課程は、建学の精神と卒業認定・学位授与の方針に掲げた目的を達成するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の諸課題の解決に役立つ幅広い知識と教養を身につけるための科目を配置する。 2. 語学、情報処理、コミュニケーションなどの基本的な能力を身につけるための科目を配置する。 3. 経営学分野の学びの出発点となる基礎的な知識と技能を身につけるための科目を配置する。 4. 現代社会の実践の場で求められる専門的な知識および行動力を身につけるために、経営学に関する専門科目ならびに教員免許や各種資格に関する科目を配置する。 5. 実習、現場体験などとおして、公共的使命感と、高い倫理観及び強い責任感を身につけるための科目を配置する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://tsushin.thu.ac.jp/about/cpdp.html)</p>
<p>(概要) 人文社会学部 経営学科 通信教育課程は、建学の精神及び人文社会学部の目的に則り、多様化する現代社会の要請に応えるため、専門知識や技能を修得し実践的に活用できる人材の養成を目指す。この教育目的を達成するため、以下のような入学者を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い知識と教養を身につけ、現代社会の諸課題に立ち向かっていこうという強い意欲を抱いている人 2. 経営学の専門知識を積極的に身につけようとする意欲を抱いている人 3. 知識と技能だけではなく、現代社会でそれを活用していくための実践能力も身につけたという意欲を抱いている人 4. 倫理観と責任感をもって、社会に貢献していきたいという意欲を抱いている人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
人文社会学部	—	56人	35人	29人	10人	0人	130人
健康メディカル学部	—	33人	26人	38人	2人	6人	105人
ヒューマンケア学部	—	24人	19人	14人	19人	4人	80人
薬学部	—	34人	17人	9人	5人	2人	67人
健康医療スポーツ学部	—	33人	28人	34人	18人	9人	122人
人文社会学部（通信）	—	1人	0人	1人	0人	0人	2人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		通学 121人 通信 55人					176人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://researchers.thu.ac.jp/thu/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、FD委員会を設置し、学部・学科を越えた、教育方法・教育技術の向上を目指し全学的な取り組みを行っている。具体的には、学生による授業評価アンケートの実施（原則全開講科目が対象）、高評価授業の教員表彰、公開研究授業の実施（年度内に1教員あたり1科目以上公開）、FD NEWSLETTERの刊行、学内講演会の実施、学外の協議会・フォーラムへの参加およびFD委員会での報告等を行っている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文社会学部	923人	785人	85.0%	3,722人	3,378人	90.8%	15人	11人
健康メディカル学部	593人	560人	94.4%	2,377人	2,140人	90.0%	2人	3人
ヒューマンケア学部	337人	339人	100.6%	1,352人	1,267人	93.7%	2人	0人
薬学部	200人	165人	82.5%	1,280人	1,140人	89.1%	0人	0人
健康医療スポーツ学部	585人	492人	84.1%	2,340人	1,952人	83.4%	0人	0人
人文社会学部（通信）	220人	27人	12.3%	1,000人	292人	29.2%	50人	26人
合計	2,858人	2,368人	82.9%	12,071人	10,169人	84.2%	69人	40人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文社会学部	833人 (100%)	7人 (0.8%)	775人 (93.0%)	51人 (6.1%)
健康メディカル学部	473人 (100%)	8人 (1.7%)	438人 (92.6%)	27人 (5.7%)
ヒューマンケア学部	296人 (100%)	14人 (4.7%)	267人 (90.2%)	15人 (5.1%)
薬学部	209人 (100%)	3人 (1.4%)	120人 (57.4%)	86人 (41.2%)
健康医療スポーツ学部	396人 (100%)	2人 (0.5%)	358人 (90.4%)	36人 (9.1%)
合計	2,207人 (100%)	34人 (1.5%)	1,958人 (88.7%)	215人 (9.7%)
<p>(主な進学先・就職先) (任意記載事項)</p> <p>人文社会学部：(就職先) 帝京大学医学部附属病院、学校法人帝京平成大学、東京都公立小学校・特別支援学校、千葉県公立小学校・特別支援学校、株式会社大京、株式会社日テレ・テクニカル・リソーシズ、積水ハウス株式会社、能美防災株式会社、株式会社武蔵野銀行、株式会社JTB (進学先) 北海道大学大学院 文学研究院</p> <p>健康メディカル学部：(就職先) 帝京大学医学部附属病院、法務省 矯正局 東京矯正管区、東京消防庁、警視庁、独立行政法人国立病院機構 東京病院、日本医科大学多摩永山病院、社会医療法人河北医療財団 河北リハビリテーション病院、医療法人財団健貢会 総合東京病院、国家公務員共済組合連合会 東京共済病院、藤沢市民病院、日本郵政株式会社 東京通信病院 (進学先) 東邦大学大学院 医学研究科</p> <p>ヒューマンケア学部：(就職先) 帝京大学医学部附属病院、帝京大学医学部附属溝口病院、帝京大学ちば総合医療センター、学校法人帝京平成大学、医療法人社団 RMC 東伏見整形外科、株式会社 SYNERGY JAPAN、株式会社マーサメディカル、医療法人社団秀順博英会 高島平2丁目整形外科、医療法人社団芳葵会 魚住総合クリニック、株式会社クラシオン、地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立大久保病院 (進学先) 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科</p> <p>薬学部：(就職先) 帝京大学ちば総合医療センター、国立大学法人信州大学 信州大学医学部附属病院、地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立墨東病院、株式会社マツモトキヨシ、ウエルシア薬局株式会社、株式会社クスリのアオキ、グラクソ・スミスクライン株式会社、エーザイ株式会社、日本イーライリリー株式会社 (進学先) 岐阜薬科大学大学院 薬学研究科</p> <p>健康医療スポーツ学部：(就職先) 帝京大学医学部附属病院、帝京大学医学部附属溝口病院、帝京大学ちば総合医療センター、帝京市原接骨院、学校法人帝京平成大学、国家公務員共済組合連合会 虎の門病院、株式会社クラシオン、東京消防庁、東電タウンプランニング株式会社 (進学先) 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科、帝京平成大学助産別科</p> <p>(備考)</p>				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
各学部・学科・コースでは、それぞれの教育研究上の目的に基づいてカリキュラム・ポリシーを定め、教育課程を編成・実施している。授業科目の担当教員は、この方針に則ってシラバスを作成している。また、記載内容の不備確認やカリキュラム・ポリシーとの整合性の確認を、各学科・コースにおいてセルフチェックにて行っている。
① シラバスの内容：科目の基本情報である「必修・選択区分」と「授業形態」、履修の順次・体系性を示す「ナンバリング」、「関連科目」や「実務経験のある教員による授業科目」の情報が記載されている。また、授業に関する具体的情報としては「授業のねらい及び到達目標」、「学修内容」、「授業の形式・計画」に加え、「使用テキスト」、「参考書、その他教材」や、学修に必要な「授業外学修（予習・復習）」も記載されている。成績評価は、科目の到達目標の学修領域（知識・技能・態度領域）に適した方法で行われるが、シラバスには、それら「成績評価方法・基準」を明記している。さらに、ディプロマ・ポリシーとの関連性について明記した「カリキュラムマップ」を別途作成している。
② シラバスの公表：シラバスは4月1日より本学のホームページに公表される。また、学生・教職員専用の学修支援ポータルサイトにて照会することが可能となっている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各学部・学科・コースの卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー；DP）は、建学の精神に則って策定されており、それぞれの学科・コースの教育課程を履修し、求められる学修成果を有する者に学位を授与することとしている。				
DPは大学ホームページで公表するとともに、ポータルサイト「UNIPA」にて掲載している「学科別カリキュラム表」でも周知している。また、科目とDPの関連性をシラバスに記載し学生に周知している。				
卒業要件は履修規則及び帝京平成大学通信教育課程規則に定め、大学ホームページで公表するとともに、「学科別カリキュラム表」で周知している。				
卒業については、卒業要件に基づいて作成した判定資料により、学科会議で判定し、その結果をもって教授会で審議した後、学長が決定する。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文社会学部	人間文化学科	124 単位	○・無	49 単位
	経営学科	124 単位	○・無	49 単位
	児童学科	124 単位	○・無	49 単位

	観光経営学科	124 単位	有・無	49 単位
健康メディカル 学部	理学療法学科	124 単位	有・無	49 単位
	作業療法学科	124 単位	有・無	49 単位
	言語聴覚学科	124 単位	有・無	49 単位
	心理学科	124 単位	有・無	49 単位
	健康栄養学科	124 単位	有・無	49 単位
	医療科学科	124 単位	有・無	49 単位
ヒューマンケア 学部	看護学科	124 単位	有・無	49 単位
	柔道整復学科	124 単位	有・無	49 単位
	鍼灸学科	124 単位	有・無	49 単位
薬学部	薬学科	192 単位	有・無	49 単位
健康医療スポーツ 学部	リハビリテーション学科	124 単位	有・無	49 単位
	理学療法学科	124 単位	有・無	49 単位
	柔道整復学科	124 単位	有・無	49 単位
	医療スポーツ学科	124 単位	有・無	49 単位
	看護学科	124 単位	有・無	49 単位
人文社会学部 (通信)	経営学科	124 単位	有・無	49 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : 帝京平成大学 情報公表「学修行動と学修成果の調査集計・分析結果」 https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：本学 Web サイトにて公表している。</p> <p>キャンパス紹介 https://www.thu.ac.jp/campuslife/campusmap</p> <p>校地・校舎面積・施設紹介・学習環境 https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure/pdf/G001.pdf</p> <p>交通アクセス https://www.thu.ac.jp/access</p> <p>建物の耐震化率 https://data.thu.ac.jp/9017/4737/9837/M02.pdf</p>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人文社会	人間文化 (福祉コース、 グローバルコミュニケーションコース) 1年生	800,000円	200,000円	300,000円	施設設備整備費
	人間文化 メディア文化コース 1年生	820,000円	200,000円	300,000円	施設設備整備費
	人間文化 メディア文化コース 2～4年生	820,000円	円	300,000円	施設設備整備費
	人間文化 (福祉コース、 グローバルコミュニケーションコース) 2～4年生	800,000円	円	300,000円	施設設備整備費
	経営 (経営コース、経営情報コース) 1年生	800,000円	200,000円	300,000円	施設設備整備費
	経営 (経営コース、経営情報コース) 2～4年生	800,000円	円	300,000円	施設設備整備費
	経営 (トレーナー・スポーツ経営 コース) 1年生	820,000円	200,000円	320,000円	施設設備整備費
	経営 (トレーナー・スポーツ経営 コース) 2～4年生	820,000円	円	320,000円	施設設備整備費
	児童 1年生	800,000円	200,000円	340,000円	施設設備整備費
	児童 2～4年生	800,000円	円	340,000円	施設設備整備費
	観光経営 1年生	800,000円	200,000円	300,000円	施設設備整備費
	観光経営 2～4年生	800,000円	円	300,000円	施設設備整備費
	健康メディカル	理学療法 1年生	900,000円	300,000円	700,000円
理学療法 2～4年生		900,000円	円	700,000円	施設設備整備費
作業療法 1年生		870,000円	300,000円	700,000円	施設設備整備費
作業療法 2～4年生		870,000円	円	700,000円	施設設備整備費
言語聴覚 1年生		840,000円	300,000円	680,000円	施設設備整備費
言語聴覚 2～4年生		840,000円	円	680,000円	施設設備整備費
心理 1年生		840,000円	200,000円	300,000円	施設設備整備費
心理 2～4年生		840,000円	円	300,000円	施設設備整備費
健康栄養 1年生		870,000円	200,000円	420,000円	施設設備整備費
健康栄養 2～4年生		870,000円	円	420,000円	施設設備整備費
医療科 (救急救命士コース・臨床工 学コース) 1年生		870,000円	200,000円	430,000円	施設設備整備費

	医療科 (救急救命士コース・臨床工 学コース) 2~4年生	870,000円	円	430,000円	施設設備整備費
	医療科 (スポーツサイエンスコー ス) 1年生	820,000円	200,000円	320,000円	施設設備整備費
ヒューマン ケア	看護 1年生	960,000円	300,000円	680,000円	施設設備整備費
	看護 2~4年生	960,000円	円	680,000円	施設設備整備費
	柔道整復 1年生	1,000,000円	300,000円	680,000円	施設設備整備費
	柔道整復 2~4年生	1,000,000円	円	680,000円	施設設備整備費
	鍼灸 1年生	1,000,000円	300,000円	680,000円	施設設備整備費
	鍼灸 2~4年生	1,000,000円	円	680,000円	施設設備整備費
薬	薬 1年生	1,350,000円	350,000円	680,000円	施設設備整備費
	薬 2~6年生	1,350,000円	円	680,000円	施設設備整備費
健康医療ス ポーツ	リハビリテーション 1年生	840,000円	300,000円	530,000円	施設設備整備費
	リハビリテーション 2~4年生	840,000円	円	530,000円	施設設備整備費
	柔道整復 1年生	1,000,000円	200,000円	550,000円	施設設備整備費
	柔道整復 2~4年生	1,000,000円	円	550,000円	施設設備整備費
	医療スポーツ (救急救命士コース) 1年生	840,000円	200,000円	430,000円	施設設備整備費
	医療スポーツ (救急救命士コース) 2~4年生	840,000円	円	430,000円	施設設備整備費
	医療スポーツ (トレーナー・スポーツコー ス) 1年生	800,000円	200,000円	300,000円	施設設備整備費
	医療スポーツ (トレーナー・スポーツコー ス) 2~4年生	800,000円	円	300,000円	施設設備整備費
	医療スポーツ (アスリートコース) 1年生	800,000円	200,000円	280,000円	施設設備整備費
	医療スポーツ (アスリートコース) 2~4年生	800,000円	円	280,000円	施設設備整備費
	医療スポーツ (動物医療コース) 1年生	840,000円	200,000円	430,000円	施設設備整備費
	医療スポーツ (動物医療コース) 2~4年生	840,000円	円	430,000円	施設設備整備費
	看護 1年生	840,000円	300,000円	680,000円	施設設備整備費
	看護 2~4年生	840,000円	円	680,000円	施設設備整備費
人文社会 (通信)	経営 1年生	96,000円	20,000円	円	
	経営 2~3年生	96,000円	円	円	
	経営 4年生	80,000円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ①入学前準備教育、② eポートフォリオ（学修ポートフォリオシステム）、③ 学生への履修指導・学修指導・生活指導、④ 父母等面談会、⑤ 障がいのある学生へのサポート、⑥ オフィスアワー、⑦ スチューデント・アシスタントの活用、⑧ 中途退学者、休学者、留年者への対応、⑨ 資格取得サポート、⑩ 学生による授業評価アンケート、学修行動と学修成果の調査を活用した学修支援体制の改善、⑪ Learning Commons ComoRevi（ラーニング・コモレビ）での個別学修支援
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・学生の進路就職活動を全般的にサポートする就職支援室を設置 ・障がいのある学生への就職支援（「勤務に配慮が必要な方向けのセミナー」の実施、「障がいのある学生向け資料コーナー」の設置など） ・留学生への就職支援（留学生ガイダンス・個別相談の実施、「留学生受け入れ企業の資料・求人票・就職ガイダンス案内コーナー」の設置など） ・U・I・Jターン案内コーナーの設置・説明会の実施 ・父母等・在学生対象就職説明会の実施
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室では、応急手当の他、健康診断結果の事後指導、実習や就職等で必要な検査の相談、近隣の医療機関の紹介、症状や受診医療機関の相談等を通じて学生に対して指導、助言を行っている。また、心身の健康等に係る支援に関して、保健室を通じて学生相談室の利用を案内し、学生生活を送るうえでの様々な悩みを相談できるよう支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.thu.ac.jp/aboutus/disclosure

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310102911
学校名 (〇〇大学 等)	帝京平成大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人帝京平成大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		845人（ ）人	804人（ ）人	894人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	463人	435人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅱ区分	217人	224人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅲ区分	141人	115人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅳ区分(理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分(多子世帯)	24人	30人	
区分外(多子世帯)	人	人		
家計急変による 支援対象者(年間)				-
合計(年間)				897人()人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	29人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	40人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	
給付奨学金については、学内での決裁後、日本学生支援機構に認定報告予定。 授業料等減免については、日本学生支援機構に報告後、国に返還予定。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	—
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	27人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	46人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	46人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。